

香川大・八木教授が釧路で講演

## 互いの価値探求を

【釧路】香川大大学院地域マネジメント研究所の八木陽一郎教授は20日、釧路公立大で「内省と対話が織りなす組織運営―企業と地域の発展の原動力」と題して講演した。対話には「互いの価値を探求する内省が必要」とした上で、組織の方向性を共感するため、まず個人の価値観を明確にすることが大切だと論じた。

釧路公立大地域経済研究センターによる地域経



内省と対話をキーワードとし、組織経営について講話した

済セミナーで講演。参加した約50人を5、6人のグループに分けて対話を指導したり、各地の事例を通じて「賞賛的に探求

する」という方法論を紹介した。

八木教授は、結果の質を高めるために必要な3つの要素として、行動と思考に加え、場の空気や

互いの信頼感などを指す「関係の質」をポイントに挙げ、「これが思考に影響し、行動の改善にもつながる」と述べた。

この後、高松や横浜で深く対話を通じて組織に変化をもたらす仕組みづくりを促した。

### 内省と対話が導く 企業、地域の発展

の未来のまちを創造する市民参加型の取り組み事例を紹介。また、コンビニエンスストアチェーンで店舗と本部が表現したことを話し合ったことで、社員の「働くことを誇りに感じる指数」が約140%上昇した効果も伝えた。

「単に会話するのでは

なく、内省することが大事。既存のものを見方をいったん保留して、探求していくこと」とまとめ、上下関係にとらわれず、深い対話を通じて組織に変化をもたらす仕組みづくりを促した。

質疑応答では、リーダーの役割について「みんなが主体的につくる状況や、リーダーを生み出すこと」などと回答。個人の価値観が明確だと企業や組織の理念に共感しやすいことにも触れ、「内省の伴う対話で徐々に(方向性が)明らかになる。これは企業の大小に限らず当てはまる」と助言した。